

Q11 これまでどういった経営努力をしてきたの？

A 経営努力を尽くしたうえで、非常時の対応等の財政上のゆとりを持たない、最小限の財源確保としてお願いしています。

コスト削減や事業経営の効率化等の取組み

水道局では、市民負担の最小化を図るため、経費の削減や水道料金以外の収益確保等の経営努力・自助努力に取り組んできました。

《民間委託や合理化・効率化等による人件費の削減》

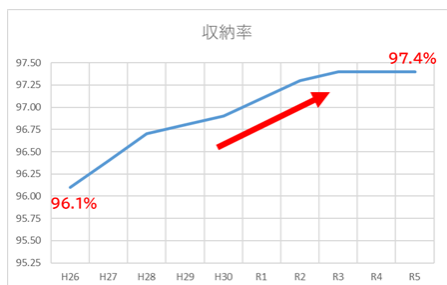
- 山の田浄水場・広田浄水場の運転管理業務委託
- 小佐々地区維持管理業務委託
- 西部営業所の廃止
- 追塩業務委託、緊急修繕業務一部委託 … など

過去20年で

職員数 △71人

人件費 △約5.5億円
(R5年度相当額)

《料金収納率や漏水対策による収益性の向上》



《水道料金以外の収益確保》

- 遊休資産や不用品の売却・利活用
- 広告収入の獲得(検針票等) など

直近10年間で

約1.5億円 を獲得

非常時への財政的備えを持たず、改定率を限界まで圧縮

また、財源を企業債(借り入れ)に最大限求め、水道料金収入のウェイトを最小化するとともに、当面3年間は、事故や災害・渇水等の対応のための“財政のゆとり”を持たない財政計画として、料金改定幅を限界まで圧縮しています。

人口減少や物価高騰等により、経営努力だけでは対応できず、どうしても水道料金に求めざるを得ない部分について、ご負担をお願いするものです。

